

令和7年度 大田区立西六郷小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年1月21日

【自分や友達、地域のウェルビーイングの実現を目指す学校を創ります】
 ・「生きる力」の基礎となる基礎的・基本的な学力の定着を図ります。
 ・校内研究「おおたの未来づくり」の学習を通して、よりよい未来をつくるための創造的な資質・能力の育成を図ります。
 ・保護者・地域・スクールサポートにしろく連携し、学校のニーズに合わせた授業補助や環境整備を行い、充実した教育活動を展開します。
 ・「歌声の響く学校」の伝統を継承し、音楽の力で豊かな感性と素直な心を育みます。
 ・異学年交流や特別支援学級との交流の機会を通して、自己肯定感や社会性、自他を大切にすることを育みます。
 ・体育(保健)の学習や休み時間の外遊び励行、早寝早起き朝ごはんの取組を通して、体力向上・健康の保持促進を図ります。

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価	人数	コメント	
生予個 き測 る困 力難 標を な1 育未 成来 し社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケート「地域について知ろう」としたり、すすんで行動したりしていませんか」の設問に対して「よく知っている」と回答した児童の割合(78.1%)	4: 90以上	○昨年度に引き続き、校内研究で「おおたの未来づくり」及び創造的な資質能力の素地を養う各教科等での授業づくりに取り組み、5回の研究授業を通し、全教員で学びを積み重ねてきた。 ○「おおたの未来づくり」の授業づくりにおいては、「実社会で活躍する人との連携」「学習サイクルや振り返りの工夫」「ICTの活用」を共通の手だてとし、様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、他者と協働しながら課題を解決し、新たな価値を創造する力の育成を図ってきた。 ○今年度は「実社会で活躍する人との連携」が進み、子どもたちの学びが豊かになるとともに、地域や社会に学びをつなげる機会を多く創出することができた。(株式会社発想法・大田区福祉協議会・防災課・健康づくり課・地域の方) ◆情報活用能力の育成については、全学年で確実に指導を積み重ねていくために、情報担当が「情報活用能力#東京モデル」を活用し、指導状況を視覚化できるシートを作成した。どの学年も計画的に指導を進められるよう、シートを活用した進捗状況管理を確実に進めていく必要がある。	A	6	・昨年度よりも地域との関わりやつながりが増え、子どもたちも考える機会となっていると感じる。 ・予測困難な未来社会を創造するには、全てのステークホルダーを大切に、ともに価値を創り出す「協創」を通じて、教育を高めることが大事だと思う。疑問に思ったことや情報をノートに書いて記録として残し、いつでも見られるようにするとよい。 ・実際に「おおたの未来づくり」の学習にモニターとして参加した。児童が提案してくれたことを行ってみて、健康になってほしいという思いをもって提案してくれていることが伝わってきた。 ・研究授業を行い、全教員で学びを重ねたことや情報活用能力の育成についての改善策が明確になっていることは評価できる。 ・教員の学びが成果につながるとうい。	
			3: 80以上			B					
			2: 70以上								C
			1: 70未満								
お世個 お界 たと 目 を標 担な 2 うが 人 材 を 際 育 都 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	児童アンケート「すすんで友達と考えを伝え合っている」の設問に対して「よくできている」と回答した児童の割合(83.5%)	4: 90以上	○昨年度に続き、小中一貫教育の会では「学んだ表現を生かして、相手を大切にしながらコミュニケーションを図る児童生徒を育てる指導」を外国語科の重点指導項目とした。11月に1年担任が外国語活動の授業提案をし、小中で活発に意見交換をする機会を得た。 ◆給食時間に外国語教育指導員が各学年級を順番に回る取組を実施した。自分から英語でコミュニケーションを取ろうとする児童が増えたと、より多くの児童がコミュニケーションを図る機会となるよう、外国語担当が中心となって活動例を提案するなど、活性化を目指す。 ◆社会の国際化、複雑化、多様化に対応していくために、各学年の人権年間指導計画に基づいた各教科・道徳・特別活動・行事等を通じた指導を確実に行う。 ○授業の中で、現代社会の課題について学習した際には、自分事としてとらえ、解決方法を考え伝える活動を取り入れてきた。今後も児童が自ら課題を見付け、解決に向けて表現したり行動したりする力の育成に力を入れていく。	A	6	・1年生の一部であるが、ネイティブ指導員の行事に参加している児童がいる。英語にはまだまだ苦手意識が感じられるため、授業を通じて慣れていってほしい。 ・給食時間に外国語教育指導員が巡回し、コミュニケーションを図ることは外国語を身近に感じることができてよい。 ・読み聞かせボランティアをした際に、特に低学年児童が積極的に取り組んでいる様子が見受けられた。 ・小中一貫教育の会で活発な意見交換がなされたことは評価できる。 ・外国語教育指導員と外国語担当の連携を通し、豊かな国際感覚の育成向上に期待する。 ・道徳や行事等で「友達と考えを伝え合う」といった内容が深まることに期待する。	
			3: 80以上			B					
			2: 70以上								C
			1: 70未満								
た一個 め人 別の 目 基と 標 礎り 3 が な個 る性 力と を能 育力 成を し発 ま揮 す	児童・生徒が豊かな人生を生き抜く上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は一人一人の子どもを大切にしているか」の設問に対して「よく当てはまる」と回答した保護者の割合(89.4%)	4: 90以上	○西六郷小学校の最後の学芸会ということで、どの学年も思いをもって、意欲的に取り組んだ。練習や本番の取組を通し、児童は様々な感情を経験し、切磋琢磨し合ったり、支え合ったり、認め合ったりする姿が多く見られた。また、前に出て堂々と発表する子や裏方として任された役目を責任をもって果たす子、欠席した児童の代役を担い、劇の成功に全力で寄り添うとする子など、個々が個性を発揮し、集団のよさを実感できる場となった。 ○「歌声が響く学校」の伝統の継承のために、課外活動である合唱部の歌声を全校で鑑賞する場を多く設定するとともに、音楽専科が中心となり、音楽朝会の隊形や内容を工夫したり、朝の放送、お昼の放送で音楽に触れ合う機会を増やしたりするなどの取組を行った。 ◆放課後補習の行い方を改善し、前学年までの学習内容の補完を徹底的に行うことで、東京ベーシックドリルの得点が向上した。また3年生以上の算数授業の始めに毎時間かけ算の反復練習を取り入れることで、九九の定着を図った。基礎・基本の学力定着に向け、補習の実施方法や内容を検討し、さらなる改善を目指す。 ○区の健康づくり課に依頼し、「体育・健康教育授業地区公開講座」で児童・保護者向け講演会を実施した。6年生は「おおたの未来づくり」で地域をもっと健康にするための取組を考え、発信することで健康への意識が高まった。 ○近隣保育園長組を招いた交流会や6年生の中学校体験授業などの交流や幼児教育センターの小学校支援活動など、幼保小連携、小中一貫教育の推進に努めた。	A	7	・行事を通して、道徳教育にもつながっていると思うため、自分だけでなく相手を思いやる気持ちを育ててほしい。 ・学芸会が今年度で最後となり残念ではあるが、保護者もよい思い出ができたことと思う。 ・今年度をもって学芸会を最後としたことは、本校の歴史に大きな幕を閉じた。このことに関わった児童は思いや意欲に大きな変化があったこと想定でき、全力で取り組めた姿勢に評価できる。 ・道徳は家庭でも基本姿勢を教えることが大切だと思う。 ・家庭では遊びの中から様々なことを自然に学べる工夫が必要だと思われる。 ・学校・地域の特色を生かした取組はとても素晴らしいと思うので、今後も続けていってほしい。 ・幼保小の連携や小中一貫教育の視点から目指す交流や推進に期待できる。	
			3: 80以上			B					
			2: 70以上								C
			1: 70未満								

<p>学個別 校別 力・標 教 4 師力 を向 上さ せま す</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>4:90以上</p>	<p>○指導訪問では、「主体的・対話的で深い学び」「ICTの活用」「児童が見通しと振り返りを行う時間の確保」を視点を全教員が授業をし、講師の先生方から指導いただいた。校内研究でも主体的に課題解決に取り組む児童の育成を目指し、「話し合いのさせ方の工夫」「ICTを活用した振り返りの工夫」などを全学年共通の手立てとし、授業作りを行った。指導教諭模範授業や研究発表会などの学校外での学びを教員間で伝達し合い、様々な実践に触れる機会を多くすることができた。</p> <p>○今年度は一部の学年が教師の専門性を生かし、教科担任制を実施した。授業内容の充実や授業準備の時間軽減につながるともに、児童理解や学年の一体感が高まり、行事運営やおたの未来づくり授業により影響が出た。次年度以降、取組を増やしていく。</p> <p>◆教員が本来すべき仕事に向き合う時間を確保するための職員への仕事の委託は進んだ。次年度は生活時程の変更・会議の精選、効率化など根本的な業務適正化を図る。</p>	<p>A</p>	<p>8</p>	<p>・他人と比べる一成果を褒めるに変わってきていると思う。</p> <p>・学校力、教師力の向上については、様々な視点から効率化や適正化等、見直しを行ったことに評価できる。</p> <p>・教科担任制の実施等、児童の授業理解が高まったことに評価できる。</p> <p>・ウェルビーイングを通し、「自分らしく生きる」ことを自覚できることに期待する。</p>
<p>た自個 め別 の目 標 びく 5 をい 支 援し きと 生 き る</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>4:90以上</p>	<p>○インクルーシブ教育推進のため、矢口特別支援学校コーディネーターを講師に招き、全教員参加の特別支援教育研修会を実施した。また、年間3回の来校相談やサポートピア相談員の訪問支援を活用し、特別な支援を要する児童への指導方針への助言を得た。</p> <p>○生活指導主任が中心となり、組織的・計画的にいじめ防止対策の取組を実施した。生活指導案件については、週1回の生活指導連絡会で確実に共有するとともに、報告・連絡・相談を徹底し、早期対応・再発防止に取り組んだ。</p> <p>○生活指導に苦慮する場面では、全児童を全教職員で見守り育てる指導体制のもと、全教職員が協力して指導にあたった。スクールカウンセラー2名、サポートルーム教員、校外の様々な関連機関との情報共有や相談を密にして連携し、児童や家庭のサポートに努めた。</p> <p>◆教室での個に応じた支援の充実が求められている。効果的な研修実施や支援員・補助員の配置の他、児童がクールダウンするスペースを確保するなど、校内環境を整える必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>6</p>	<p>・児童の自己肯定感が昔に比べて上がっている。学校や家庭が否定一肯定(褒める)に変化している結果だと思う。いじめなども減るとよい。</p> <p>・インクルーシブ教育が推進され、共生社会への理解を深められることに期待する。</p> <p>・児童一人一人がそれぞれの自己肯定感を感じることができ、高められる学校生活や、家庭生活に期待する。</p> <p>・いじめ防止対策の取組を実施するなど、早期の対策や再発防止への取組に評価できる。</p>
<p>安柔個 心軟別 なで 目 教創 標 育造 6 環 境 な を 学 習 空 間 と 安 全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>4:90以上</p>	<p>○校舎老朽化により、修繕を要する箇所が多くあった。毎月1回安全点検を実施し、危険箇所や改善を要する箇所を各教員が報告し、学校全体で集約して迅速に対処してきた。また、学習環境をよりよくするために週1回事務主事・用務主事・副校長の打合せを開き、計画的に環境整備を図った。</p> <p>○避難訓練や交通安全教室、セーフティ教室などの機会に、交通安全指導員、防災課、蒲田警察、矢口消防署、アルソック等と連携し、様々な体験的活動を通して、計画的に安全指導を進めることができた。</p> <p>○「おたの未来づくり」授業では、5年生児童が学んだことを地域防災訓練で発表する機会を得たことで、地域防災に対することも保護者の関心を高めることができた。</p> <p>◆より実際の避難訓練となるよう、3学期に予告なしの訓練を増やし、児童が経験を生かして主体的に行動する機会をつくる。</p>	<p>A</p>	<p>7</p>	<p>・校内はもちろん、学校の外もきれいにされていて、とても素晴らしい環境です。教職員の皆様、用務員さん、いつもありがとうございます。</p> <p>・点検などは、点検表などがあれば支援本部などに委託できる。担任は困っている箇所などを提出すればダブルチェックになる。</p> <p>・校舎老朽化が進んでいるが、今後も十分に環境衛生に心掛けてほしい。</p> <p>・保護者アンケートの回答に評価する。</p> <p>・校舎老朽化による環境整備等、迅速な対応に感謝する。</p> <p>・避難訓練等様々な緊急対応の学びに評価できる。児童の主体的な行動に期待する。</p>
<p>学地学 校域校 別を コミ 家標 く庭 7リ ニ ま テ 地 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>4:90以上</p>	<p>○「おたの未来づくり」や創造的な資質能力の育成を図ることを意図して計画した各教科等の授業の充実により、地域の方から学ぶ機会や地域に目を向けた学習活動が増えた。</p> <p>○「スクールサポートにしろく」による授業支援、行事支援、図書館整備、読み聞かせボランティア、夏のわくわくスクールなどにより児童の学習活動の充実を図ることができた。ホームページや学校便りを通して、「スクールサポートにしろく」の保護者認知度が上がった。</p> <p>○「にしろくイベント部」が保護者のニーズに沿って校庭開放、ハロウィンパーティー、給食試食会を企画し、ボランティアを募ってそれらを実施した。また、学校徴収金の監査や町会から依頼のあったお祭りボランティア募集にも携わっていた。</p> <p>◆来年度からコミュニティ・スクールになり、地域と学校との連携・協働が進んでいく。学校・家庭・地域の連携・協働を深めるため、学校の教育活動や「スクールサポートにしろく」「にしろくイベント部」の活動への保護者の参画が増えるよう呼び掛けていく。</p>	<p>A</p>	<p>7</p>	<p>・「スクールサポートにしろく」について、保護者(祖父母を含め)の参加を促進したい。そのためにも、年度始めに年間の予定情報を発し、どなたかに参加していただくようお願いするとよい。</p> <p>・「スクールサポートにしろく」や「イベント部」とともに、保護者も活動の場を広げていくことを望む。</p> <p>・PTAが活動できていない中で「イベント部」や「スクールサポートにしろく」の活動が増えていくことに期待する。</p> <p>・「にしろくイベント部」が活用しているアプリを生かし、学校・地域の情報を発信していけるとさらによくなると思う。</p> <p>・先生方のご苦労がよく分かる。これからも地域のみならず学校に協力を惜しみなくお手伝いをしていく。</p> <p>・保護者アンケートで取組の認知度が上がったことに評価できる。「スクールサポートにしろく」や「にしろくイベント部」の活動への参画が増えることに期待する。</p> <p>・コミュニティ・スクールへと変化することで、さらなる連携や協働を進め、学校と地域との関わりがより深まることに期待する。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す